証券コード：2204

第 89 期

報 告 書

平成21年4月1日▶平成22年3月31日

株式会社 中村屋

【株主の皆様へ】

株主の皆様におかれましては、日ごろより格別のご支援を賜り、厚くお礼申しあげます。昨年6月に就任いたしました、染谷省三でございます。

リーマンショックを発端とした世界的経済不況は、社会全体の認識や価値観などに劇的な変化を引き起こしたことは、皆様ご承知のとおりです。私はこの環境の変化をチャンスととらえ、新たな可能性にチャレンジするために、リーダーとして方向を示し、強い信念を持って企業の持続的成長と高収益体質の実現に向けて努力する所存です。どうぞ、今後とも中村屋をご愛顧くださいますようお願い申しあげます。

ここに、第89期（平成21年4月1日から平成22年3月31日まで）中村屋グループにおける事業の概要をご報告申しあげます。

代表取締役社長　染谷　省三

営業の経過および成果

■■■ 買うモノ・買う場所・買う基準に変化 ■■■

菓子・食品業界では、消費力の低下に加えて、少子高齢化や安全・安心・健康志向の高まり、インターネットなどの進展を背景に、買うモノ・買う場所・買う基準に変化が生じており、消費スタイルの変化に対応した商品開発やサービスの提供が求められています。

■■■ 売上高の拡大とローコスト化 ■■■

中村屋グループは、当期を2年目とする中期経営計画「イノベーションプランN21」に基づき、企業価値向上に向けて売上高の拡大とローコスト構造改革に取り組み、市場の環境変化や競争に強い企業グループの実現に力を注いでまいりました。具体的には、「商品企画力」や「ものづくり力」の向上を図り、勢いのある市場への積極的な商品展開や事業拡大が見込める分野への経営資源の投入などを行いました。また、購買手法「リバースオークション（競争入札）」の導入や、グループ購買による調達のローコスト化に取り組みました。品質管理に関してはAIB食品安全統合基準に基づく管理体制の徹底を継続し、さらなる強化を図りました。その他、内部統制システムの確立を進めると共に、環境保全活動や食育活動など社会貢献を中心とした企業活動にも取り組んでいきました。

■■■ 成果の報告 ■■■

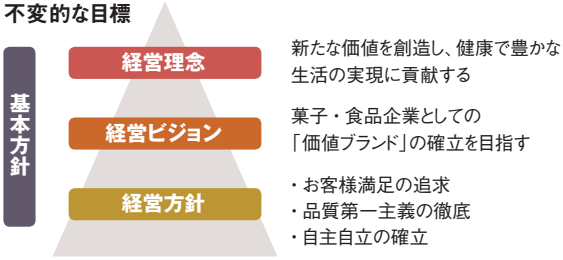
以上のような経過の中で、下期において増収となったものの、上期の急激な減収を補うには至らず、当連結会計年度の

売上高は40,887百万円　前期比819百万円、2.0%の減収となりました。

利益面におきましては、売上高減収に伴う粗利益の減少に加えて、退職給付費用の負担増加などがあり、ローコスト施策を積極的に推進しましたが、連結経常利益は、1,271百万円　前期比272百万円、17.6%の減益となりました。また、連結当期純利益は、店舗の減損処理などの発生があり、735百万円となり、前期比47百万円、6.0%の減益となりました。

中期経営計画【イノベーションプランN21】

不変的な目標



今後の課題と戦略

■■■ 成長モデルの確立 ■■■

少子高齢化による市場の縮小に加え、消費者の価値観の変化など経営環境が大きく変動している今、これまでの延長上の事業活動では、企業の発展は望めません。

そこにあって、市場の変化に対応する新たな「成長モデル」を作るため、お客様のライフスタイルや食生活スタイルを徹底的に検証し、お客様目線の発想を取り入れることでニーズに一致する商品の提案に繋がる「戦略テーマの具現化」に努めます。まずは、中村屋109年の歴史の中で培われた技術力をさらに磨きあげ、独創的な商品を、全社一丸となって作り出すことに取り組みます。そして、そこに経営資源を集中して投入することにより、売上高の創出を図ってまいります。

■■■ 高い収益体質の実現 ■■■

もう一方で、高収益体質の実現に向けて「企業競争力の強化」を目指します。具体的には、事業構造や業務システムの改革による生産性の向上と、SCM（サプライチェーンマネジメント）の活用による供給コストの最小化を実現させます。同時に、市場環境に対応しきれていない不採算事業や店舗、商品の絞り込みを実施し、収益性の向上に取り組んでまいります。

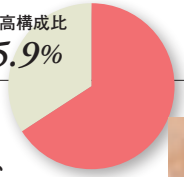
■■■ 社会に存続する企業として ■■■

また、食品会社の生命線とも言える「食の安全・安心」については、品質保証システムを引き続き強化させると同時に、お客様のご意見・ご要望に、よりスピーディーに向き合える体制を整備していきます。併せて、コンプライアンスの徹底、内部統制システムの運用による企業統治体制の確立、省エネや廃棄物削減といった環境保全活動、食育活動などにも力を入れ、社会的責任を果たしてまいります。

以上の諸施策を実行することで、「お客様満足の向上」と「企業価値の向上」を図り、持続的成長の実現を目指してまいります。

株主の皆様におかれましても、引き続き一層のご理解とご支援を賜りますようよろしくお願い申しあげます。

菓子事業



売上高26,935百万円（前期比1.0%増）

菓子事業では、おいしさの追求と「食の安全・安心」の確保に努め、主力商品の改良とともに積極的に新商品の開発を行い、商品力の強化を図りました。

和菓子類では、代表商品である「月餅」「桃山」「碌山」を現代の嗜好に合わせ小型化、上質化した「自慢詰合わせ」や、各種餡をマドレーヌ生地で包んだ「あんづつみ」などの贈答商品の開発と併せて、自家用商品の充実にも取り組みました。

洋菓子類では、空港、駅構内向けに「ふんわりしょ・こ・ら」に次いで2品目を投入、高速道路サービスエリア向けに「こんがりキャラメルラスク」を発売するなど、おみやげビジネスの強化を展開いたしました。

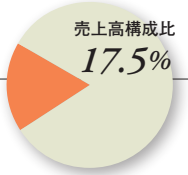
中華まんじゅう類では、上質化・少量化をキーワードに新商品の開発や主力商品の品質改良を行い、お客様のニーズに応えていきました。また、コンビニエンスストア販路において、商品を店内で揚げて提供する「揚げパン類」を新発売しました。

店舗展開では、ショッピングセンターなどに、新感覚デザートショップ「かんてん舎（や）」を出店しました。また、月餅専門店「円果天（えんかてん）」の2号店を伊勢丹浦和店に出店いたしました。

ふんわりしょ・こ・ら

〈かんてん舎〉
小豆寒天 抹茶ムース（左）
伊予柑ゼリー寒天（右）

食品事業

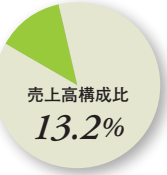


売上高7,173百万円（前期比7.7%減）

業務用食品事業では、主要取引先であるファミリーレストランの苦戦が続く中、当社の調理技術を生かしたメニュー提案を積極的に行うのと同時に、新規顧客の開拓にも注力いたしました。市販食品事業では、健康・適量ニーズに応じた新たなコンセプトの「ブランチカリー」をお手ごろ価格で発売しました。また、少容量ニーズにはミニシリーズを展開していきました。生協・通販向けには、カレー類などを新発売していきました。

ブランチカリー

飲食事業



売上高5,377百万円（前期比7.8%減）

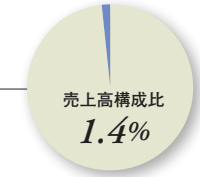
本店では、新宿移転100周年イベントを開催しました。「インドカリーチャリティー」と称し、インドカリーを特別価格で販売し、売上金全額をWFP 国連世界食糧計画に寄付した他、「100年を振り返るパネル展」や、「焼きたてクリームパン」、「三色カリー」の発売など、ご来店いただいた数多くのお客様より大変ご好評をいただきました。

直営レストラン部門「オリーブハウス」「インドカリーの店」では、メニュー改訂や季節フェアの実施など、商品の充実を図ると共に販売促進策を強化し、サービス・雰囲気を含む多角的な店舗検証を行い魅力ある店舗作りに努めました。

本店100年展

〈オリーブハウス〉
オムライスプレート

その他事業

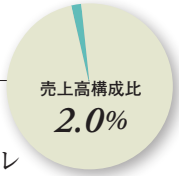


売上高573百万円
（前期比2.4%増）

スポーツ事業として展開している会員制スポーツクラブ「NAスポーツクラブA－1」では、フィットネス需要の高まる中、A－1オリジナルの幅広いメニューを構成し、きめ細かい会員サービスに努めてまいりました。また、平成21年11月に小田急線町田駅前に第2号店を新規オープンいたしました。

笹塚NAビル

不動産賃貸事業



売上高828百万円（前期比5.1%減）

不動産賃貸事業では、笹塚NAビルにおいてレストルームの全面的改装など、オフィスビルとしての価値向上に努め、景気後退に伴うオフィスビル市況の悪化という厳しい環境の中で、入居率100%を維持しました。

NAスポーツクラブA-1 町田店

連結財務諸表

連結貸借対照表

（単位：百万円）

科　目	当期（平成22年3月31日現在）	前期（平成21年3月31日現在）
資産の部		
流動資産	11,292	10,575
固定資産	28,225	28,317
有形固定資産	22,270	22,857
無形固定資産	564	749
投資その他の資産	5,390	4,711
資産合計	39,516	38,892
負債の部		
流動負債	8,673	8,602
固定負債	8,677	8,548
負債合計	17,351	17,150
純資産の部		
株主資本	22,163	22,033
資本金	7,469	7,469
資本剰余金	7,579	7,578
利益剰余金	7,272	7,131
自己株式	△ 157	△ 146
評価・換算差額等	3	△ 291
その他有価証券評価差額金	3	△ 291
純資産合計	22,166	21,742
負債・純資産合計	39,516	38,892

（注）記載金額は、百万円未満を四捨五入で表示しております。

連結損益計算書

（単位：百万円）

科　目	当期（平成21年4月 1日から 平成22年3月31日 まで）	前期（平成20年4月 1日から 平成21年3月31日 まで）
売上高	40,887	41,705
売上原価	23,402	23,821
売上総利益	17,485	17,885
販売費及び一般管理費	16,274	16,370
営業利益	1,212	1,515
営業外収益	115	141
営業外費用	55	113
経常利益	1,271	1,543
特別利益	0	38
特別損失	110	177
税金等調整前当期純利益	1,162	1,405
法人税、住民税及び事業税	481	534
過年度法人税等戻入額	△ 69	0
法人税等調整額	14	88
当期純利益	735	782

（注）記載金額は、百万円未満を四捨五入で表示しております。

連結キャッシュ・フロー計算書

（単位：百万円）

科　目	当期（平成21年4月 1日から 平成22年3月31日 まで）	前期（平成20年4月 1日から 平成21年3月31日 まで）
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,587	1,493
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,693	△ 518
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 668	△ 1,073
現金及び現金同等物の増減額	225	△ 98
現金及び現金同等物の期首残高	3,285	3,383
現金及び現金同等物の期末残高	3,510	3,285

（注）記載金額は、百万円未満を四捨五入で表示しております。

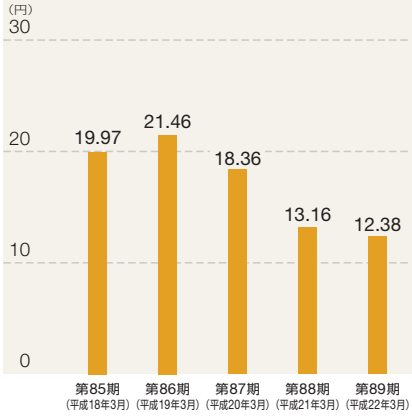
業績ハイライト

連結売上高

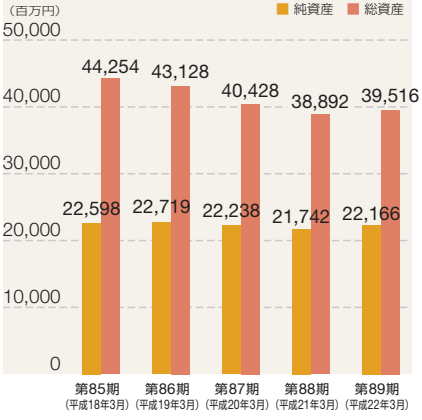
連結経常利益

連結当期純利益

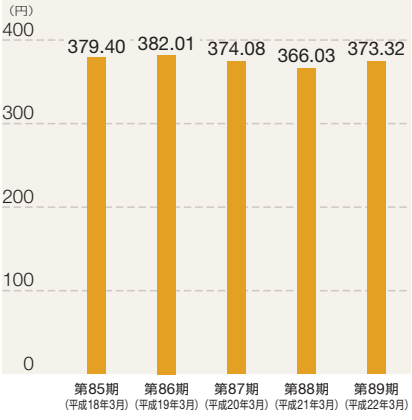
一株当たり当期純利益



純資産／総資産



一株当たり純資産



食育&社会貢献

文部科学省「目指せスペシャリスト」事業で神奈川県立相原高校を支援

TOP

◆相原牛を使ったレトルトカレーの開発

相原高校と中村屋で「相原牛カリー」を共同開発しました。これは地域産業振興・食育の一環として、『相原ブランド』の発信とカレー文化の継承を目的としたものです。

相原高校で育てた牛と野菜を使い、生徒と一緒にレトルトカレーを開発。パッケージは同校商業科がデザインし、相原高校オリジナルのカリーが誕生しました。

生徒たちが愛情を込めて作ったカリーは、ビーフとキーマの2種類

◆相原豚を使った中華まんの開発

環境保全活動の一環として、リサイクルループの構築を目的に、中華まんを共同開発しました。リサイクルループとは、食品廃棄物を飼肥料にリサイクルし、その飼肥料で育てた農畜産物を使って、食品廃棄物を発生させた企業等が製品を作ることで食品が循環する仕組みです。中村屋の食品廃棄物の一部で作った飼料を使い、相原高校で相原豚を育て、同校で栽培した野菜とあわせて塩味ベースの中華まんを作りました。

大好評の肉まん約10,000個を生徒たちが完売

◆1日講座「食文化と地域産業」を開催

相原高校で開催された「食文化と地域産業」をテーマとした5日間の集中講座内で、中村屋が1日講座を担当しました。「レトルトカレー」を題材に、マーケティングや製造工程、品質保証の講義、カレーの調理実習を実施。食品企業における「商品ができるまで」をトータルで学べる内容の講座となりました。

相原高校のこれらの取り組みは高く評価され、第39回日本農業賞・特別部門の第6回食の架け橋賞「大賞」（主催：JA全中、JA都道府県中央会、NHK）を受賞しました。

※神奈川県立相原高校は文部科学省主催「目指せスペシャリスト」事業の指定校です。

ICS トピックス

ものづくり力 菓子製造技術 飴細工が「内海会ジュニア技術コンクール」で連続入賞

中村屋の従業員である安富祖光将さんが、23歳以下の若手パティシエを対象とした洋菓子コンクールにおいて、2大会連続で優秀な成績を収めました。同大会は、若手パティシエの登竜門と言われ、これまで数々の有名パティシエがこの大会から世界へと旅立っています。第14回のコンクールでは夏のフルーツの断面を生き生きとみせる新しい試みが評価され、見事最優秀賞に輝きました。

第14回 最優秀賞受賞作品「夏」

フルーツと花や虫たちの生命感を描き出すことで「命輝く夏」を表現しました

第13回 金賞受賞作品「春」

雪解けから妖精や虫たちが活動する喜びを描くことで、「萌え出る春」を表現しました

社会貢献 本店100周年記念 インドカリー チャリティーイベントを開催

本店100周年記念イベントの一環として、9月1日に、本店2階ルパでインドカリーを100周年記念価格700円で提供しました。当日のルパの売上金全額とお客様からの寄付金を合わせた1,175,821円をWFP 国連世界食糧計画に寄付しました。寄付金の贈呈式では、NPO法人国連WFP協会から中村屋に感謝状が授与されました。

WFP日本事務所での寄付金贈呈式

環境保全 環境省主催の「CO_2削減／ライトダウンキャンペーン」に参加

環境省は毎年6月20日から7月7日まで「CO_2削減/ライトダウンキャンペーン」を実施しています。これはライトアップ施設等を消灯することで普段いかに照明を使用しているかを実感し、地球温暖化について考えてもらうためのイベントです。

中村屋はその趣旨に賛同し、広告灯の消灯のみならず、期間中の「ノー残業デー」を実施し、事務フロアーの蛍光灯の消灯を行いました。その結果、一般家庭41世帯1日分に相当するCO_2 609.4kgを削減しました。

会社概要・株式情報

概要

創業	明治34年12月30日
設立	大正12年4月1日
資本金	74億6,940万円
営業内容	各種和洋菓子・パン・その他食料品の製造、販売ならびに飲食店の営業
従業員数	905名

（上記の他臨時従業員が期中平均1,214名おります。）

主な事業所

本社	埼玉工場	北営業所
東京事業所	つくば工場	札幌営業所
研究開発室	中央営業所	名古屋営業所
神奈川工場	東営業所	大阪営業所
食品工場	南営業所	福岡営業所

グループ会社

黒光製菓株式会社　株式会社ハピーモア
株式会社エヌエーシーシステム

役員

取締役会長	長沼　誠	執行役員	三方　千博
代表取締役社長	染谷　省三	執行役員	杉山　敏行
取締役兼常務執行役員	小林　政志	執行役員	小川　俊久
取締役兼常務執行役員	小林　恒	執行役員	御厨　久司
取締役兼執行役員	飯山　一伸	執行役員	平林　盟久
取締役兼執行役員	二本松　壽	執行役員	小庄　秀範
取締役兼執行役員	藤木　裕人	執行役員	飯田　次雄
取締役	荒井　英夫	執行役員	鈴木　達也
常勤監査役	長峰　一眞	執行役員	赤石　実
常勤監査役	波多　正		
監査役	原　秋彦		
監査役	山本　光介		

（注）取締役荒井英夫氏は社外取締役であります。
監査役原秋彦・山本光介の両氏は社外監査役であります。

※平成22年6月29日現在

株式の状況

発行可能株式総数	199,044,000株
発行済株式の総数	59,375,483株

（注）自己株式386,572株が含まれておりません。

株主数	8,675名

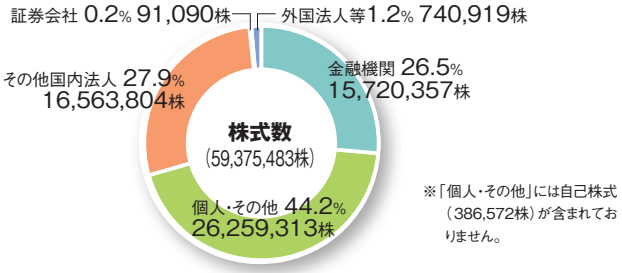
（注）前期末に比し28名増加いたしました。

大株主（上位10名）

株主名	持株数（千株）	持株比率（%）
中村屋取引先持株会	4,782	8.05
株式会社みずほ銀行	2,925	4.93
三井不動産株式会社	1,800	3.03
日本トラスティー・サービス信託銀行株式会社（信託口）	1,591	2.68
日本製粉株式会社	1,301	2.19
株式会社三菱東京UFJ銀行	1,151	1.94
日東富士製粉株式会社	1,110	1.87
豊田通商株式会社	1,100	1.85
中村屋従業員持株会	1,093	1.84
株式会社りそな銀行	1,000	1.68

（注）持株比率は自己株式を控除して計算しております。

所有者別株式分布状況



（注）持株比率は自己株式を控除して計算しております。

【株主優待のご案内】

株主様の日ごろのご支援・ご愛顧にお応えするために、毎年3月31日の最終株主名簿に記録された1,000株以上ご所有の株主様に対し、株主優待品を、6月中旬～下旬にお届けいたしております。

優待商品（イメージ）

ご所有株式数に応じ、優待品「A」・「B」または「C」から選択していただきます。

ご所有株式数	A	B	C
1,000株 ～ 3,000株未満	2,000円相当の自社商品	株主優待券1冊 （15％割引、20枚）	社会貢献活動団体へ寄付2,000円
3,000株 ～ 5,000株未満	3,000円相当の自社商品	株主優待券2冊	社会貢献活動団体へ寄付3,000円
5,000株以上	5,000円相当の自社商品	株主優待券2冊 3,000円相当の自社商品	社会貢献活動団体へ寄付4,000円 株主優待券1冊

※　株主優待券のお取り扱いは47店の指定店舗に限り、特殊商品を除く買物・飲食にご利用いただけます。
　　お取り扱い店舗の変更の場合は弊社ホームページに掲載させていただきます。
※　自社商品は、弊社で決めさせていただき、ご選択時にご案内いたします。

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
配当金受領株主確定日	毎年3月31日
定時株主総会	毎年6月
単元株式数	1,000株
公告方法	電子公告により掲載します。ただし電子公告を行えない事由が生じたときは日本経済新聞に掲載する方法により行います。
株主名簿管理人	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	みずほ信託銀行株式会社　本店証券代行部

	証券会社に口座をお持ちの場合	特別口座の場合
郵便物送付先	お取引の証券会社となります。	〒168-8507 東京都杉並区和泉2-8-4 みずほ信託銀行 証券代行部
電話お問合せ先		0120-288-324

今期より、配当金を「配当金領収証」で受領される株主様にも「配当金計算書」を同封しております。平成23年の確定申告の際にご使用ください。

なお、配当金を株式数比例配分方式によりお受け取りの場合、平成22年1月のお支払分より源泉徴収税額の計算は証券会社等にて行われますので、平成23年の確定申告の添付書類としてご使用いただける支払通知書につきましては、お取引の証券会社等へご確認ください。

INFORMATION
インフォメーション

新宿中村屋オンラインショップ

るくーるるくる
Rukuru Rukuru

新宿中村屋のこだわりの
カリー・中華まん・お菓子・季節の贈り物を
お届けします。

るくーるるくる　検索

http://www.nakamuraya.jp/

お菓子のご案内
食品のご案内
レストランのご案内
焼きたてパンのご案内
新宿本店
店舗情報　等…

中村屋に関する情報はホームページでご覧になれます。

http://www.nakamuraya.co.jp/

◉商品情報、店舗情報、豆知識など、中村屋に関する様々な情報が満載。
◉株主・投資家の皆様に向けたIR情報も掲載しています。

株式会社 中村屋

住　所：東京都新宿区新宿三丁目26番13号
電　話：03-3352-6161（大代表）
e-mail：webmaster@nakamuraya.co.jp
ＵＲＬ：http://www.nakamuraya.co.jp/
〈お問合せ先〉総務・法務部
電　話：03-5454-7111

表紙の写真「涼味水ようかん」
昭和9年（1934年）に日本で初めて「水ようかん」の缶詰化に成功。以来、生菓子の美味しさをそのままに、夏の風味として広く愛されてきた伝統を受け継ぐ中村屋自慢の「水ようかん」です。
●本報告書の商品写真はイメージです。